はじめての人
ベテランの人
の

報恩講ガイド

（二〇一八年度版）

報恩講とは

今風にいうと、浄土真宗のメインイベント、一番大切な行事です。七〇〇年以上にわたり、私たちの先達により、ひと世代ひと世代、大切に伝えられてきました。クリスマスをしないキリスト教徒がいないように、報恩講を大切にしない真宗門徒というのは成り立たちません。

初めて聞いた

核家族化のせいでしょうか、ご両親はあんなに大事にされていたのに、次世代が全くご存じないという方が急増しています。「木を見て森を見ず」という諺（ことわざ）があります。私たちが知らないご先祖方が、すぐそこ、私のところまで届けてくださっている大きくて静かな森（仏さま）の世界あります。「関心ない」「忙しくてそれどころではない」「葬式・法事だけでいい」とおっしゃらず、どうかすばらしい宝の山があることに気づかせていただきましょう。

報恩講は三つ

報恩講は、

①通り報恩講
②お取越し報恩講
③御正当（御正忌）報恩講

の三通りあります。

①通り報恩講

各ご家庭でつとめる報恩講です。ご門徒は必須です。西教寺では、毎年十月一日よりはじまります。お寺の近くはさしあたり日時を指定させていただき、一軒三〇分の目安でお参りしております。お寺から遠いお宅には、あらかじめ日時を相談の上お参りさせていただいています。

その日はだめ

仕事やご病気など、当日都合がつかない方は、相談の上別の日時にお参りさせていただいています。大事な報恩講です。早朝でも夜でも、数ヶ月後でも頑張ってお参りいたしますので、ご遠慮なくご一報ください。

《連絡先》
すべて蔵本通支坊へ
0823（21）2798

ご理解とご協力を

時間厳守を心がけていますが、急にご門徒がお亡くなりになったりすると、臨終勤行（枕経）やお葬式などで、どうしても予定を変更せねばならない場合があります。その他、どうしても切り上げられない相談になる場合もあります。その際は、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

②お取越し報恩講

お寺でつとまる報恩講法要です。親鸞聖人のご命日（一月十六日）を取り越して（くりあげて）つとめるのでそういいます。ご門徒の皆さん、お忙しいとは存じますが、どうぞ年に一度、報恩講だけはお寺にお参りすることにしてください（詳細は最後のページ）。

おとりこし報恩講法座
三津田支坊
11月13日～15日
蔵本通支坊
11月26日～29日
長ノ木本坊
12月12日～16日

③御正当（御正忌）報恩講

そして最後に、一月十六の親鸞さまのご命日、ご本山（西本願寺）で御正忌報恩講が九日～十六日の八日間つとまります。安芸地方では「おたんや」と呼び親しまれています。それはそれは素晴らしいご法縁です。美しく荘厳された御堂は満堂となり、希望者は国宝の間でお斎（とき・精進料理）もいただけます。十五日は通夜布教といってひと晩中ご法話があります。皆さんぜひご本山へお参りなさってください。

しかし、昔はそう簡単に京都へ行けませんでしたので、ご法義な（信心深い）安芸地方では、当たり日（ご正当）にもお寺で法要がつとまり、ます。ご縁のととのわない方は西教寺でごいっしょにご正当のご勝縁にあわせていただきましょう。

ちなみに、この期間、門徒は広島の郷土料理「煮ごめ」を食べてお精進で過ごします。漁・猟も休んだため市場・鮮魚店・精肉店が休みになりました（おたんやの市止まり）。

報恩講の意義

仏教は先祖供養の教え、お寺は葬式と法事をするところとお考えの方も少なくないかもしれません。しかし、お釈迦さまの説かれた仏法、また親鸞さまの教えは、本来的にこの私が人生の悲しみや苦しみを超え、安らかな実りある人生を他者と共に歩むことを教えるものです。真宗では、そのようなまことの人生にめざめて生きることを「信心を決定する」といいます。蓮如さん（本願寺八代門主）は、

この砌（報恩講の法縁）において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば、真実真実、聖人（親鸞）報謝の懇志にあひかなふべきものなり。

（『御俗姓御文章』『浄土真宗聖典註釈版』一二三頁）

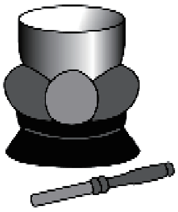
と、私たち一人一人が信心を決定することこそが、親鸞さまのご恩に報いること「報恩」なのだとおっしゃっています。報恩講は、私（たちが）本当の人生に開かれてゆくご縁です。

お仏壇の準備

通り報恩講は、何はともあれお仏壇のご準備から。報恩講は、昔から、「おみがき」といってお仏壇を大掃除してお迎えするのが慣わしです。

おみがき（お掃除）

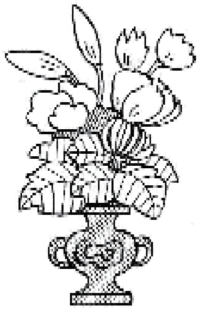
めっきしていないしんちゅう製の輪燈・おリン・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅう磨きなどで磨きます。家族みんなでおみがきしましょう。



おかざり

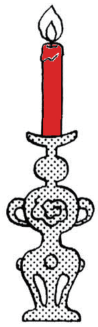
〈お花〉

まごころをお供えするのですから、**造花はご法度**です。



〈ローソク〉

普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のローソクの光りをともしましょう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱ロウ（赤いローソク）で。マッチと灰皿をお忘れなく。

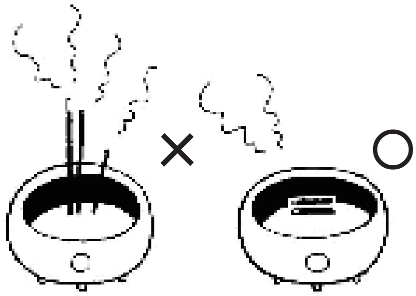


〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）にもお忘れなく。

〈お香〉

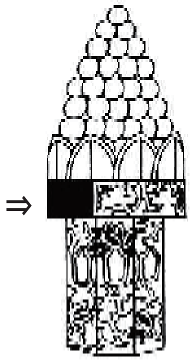
できるだけ良い香りのものにしましょう。香炉は灰をならしておきましょう。マッチの燃えカスは香炉ではなく灰皿に入れるようにしましょう。



線香は立てずにねかせます

〈お供え物〉

報恩講などの法要仏事の際は、お仏飯の他、お餅やお菓子等を適宜お供えします。お供えする順番は上から、または内側から①「餅」②「菓子」③「果物」の順です。また、お供えは、供笥（華足ともいう）や高杯に盛りますが、この辺で多い三方向が金濃（金色）、残りの三方向が黒の供笥は、金が正面に来るよう（黒が見えないように）します。



裏側（黒塗りの部分）が出ないようにします。

ちなみに、仏さまと、ご先祖とを混同しておられる方も少なくないようです。仏さまにはお水・お茶・コーヒー・お酒・たばこ等はお供えしません。

亡き人とお話ししたり、涙を流したりするのも、さまざまな人生苦も、お仏壇の前で、仏さまとともに向き合ってゆくと、心が安らぐと思います。

御文章（ごぶんしょう）

「出し忘れ」をしたり、向きが「上下逆」になっているのが御文章。お持ちでない方は、お寺にご相談下さい。

こちら（上側）が仏さま側

ちなみに、法事の「お仏前」をお供えする場合や、お花、仏具なども仏さまの方には向けずに私たちの方向にを向けるのがお作法です。

お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹香（粉のお香）を忘れずに。

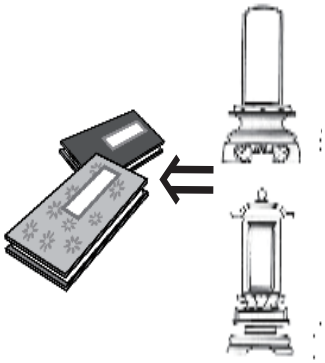
お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。また、大切な物では直接地面に置かないよう気をつけましょう。

おつとめ

お経はいっしょについてあげます。老眼鏡を忘れずに。時間を一軒三十分に長くしてから、お正信偈も少しはゆっくりになったと思いますので、できるだけ多く方を誘っていっしょにおつとめしましょう。

お位牌は過去帳に



真宗はお位牌は用いません。法名帳（過去帳）に書き換えましょう。お寺の者にご相談下さい。

真宗門徒の生き方

「浄土真宗の教章（旧）」には、真宗門徒の生き方として「深く因果の道理をわきまえて、現世祈祷やまじないをおこなわず占いなどの迷信にたよらない」とあります。私たちのご先祖はどうだったかというと、江戸時代、広島藩で編纂された『芸藩通史』に、

封内（＝領地内）親鸞宗に係わるもの多し。その深く信ずる者は、家に神棚を置かず、病んで祈祷せず（『芸藩通史』）

と、神さまや祈祷にたよらずに、教えの通り力強く生きておられた様子が記されています。

お参り先で、たまにお守り・破魔矢・お札・神棚・他宗の本尊など見かけます。このほか、日の善し悪しや方角、墓相・家相、その他さまざまな縁起かつぎや、運気が上がるといわれる壺や印鑑など、気になっている方もいらっしゃるようです。私は、このことを「けしからん」とか「つまらん」とかいいたいのではありません。悩みや不安は誰にだってあります。

宗教は大きく分けて「力の宗教」と、「道の宗教」に分けることができると思います。前者は人間を超えた力、パワーに頼る宗教です。後者はまことに実りある人生はどう生きてゆけばよいのか、真実の道理を教える宗教です。何が本当のことか、実りある人生には何が大事なことなのか、どうぞごいっしょにお聴聞させていただきましょう。

いらなくなります

目からウロコのお取越し報恩講法座

〔朝席〕8 時 30 分～ 10 時 30 分　〔昼席〕13 時～ 15 時　〔夜席〕19 時 30 分～ 21 時
参加費（ご法礼）はお気持ち（喜捨）。本堂内の帳場さんへお願いします。

三津田支坊　11月13日（火）夜席～14日（水）朝席・昼席 / 15日（木）朝席

三条 4-13-7
TEL0823-21-5895

講師　本多 靜芳　先生 ※15日（木）朝席参詣者全員にお斎（とき・精進料理）。
（東京仏教学院講師・アーユス仏教国際協力ネットワーク理事・東村山市万行寺住職・著書『「歎異抄」を読む』『いのち、見えるとき』他多数

蔵本通支坊　11月26日（月）夜席～29日（木）朝席〈27日（火）・28日（水）夜席なし〉

中央 7-7-13
TEL0823-21-2798

講師　西光 義秀 先生 ※29日（木）朝席 お斎（とき・精進料理・要チケット）
（元佐賀龍谷短大教授・奈良県宇陀郡満行寺住職
著書『われも六字のうちにこそ住め』『私のものさし仏のこころ』

長ノ木本坊　12月13日（木）夜席～16日（日）朝席〈14日（金）・15日（土）夜席なし〉

長ノ木町 16-10
TEL0823-21-3714

講師　永原 智行　先生 ※16日（日）朝席 お斎（とき・精進料理・要チケット）
（本願寺派布教使・和歌山県由良町教専寺住職
著書『阿闍世のすべて－悪人成仏の思想史－』